

機関誌編集委員会(第10回)議事録

(令和2年9月9日(火) ZOOM 会議 16:00~17:00)

出席 : 藤井義博(藤女子大学)、守屋達美(北里大学)、安宅勝弘(東京工業大学)、
吉川弘明(金沢大学)、久保田 稔(関西学院大学)、工藤 喬(大阪大学)、
鎌野寛(香川大学)、丸山 徹(九州大学)

吉川委員長を議長として開会。議事日程に従って議事を進行した。

議 題

1. 吉川委員長より副委員長として藤井義博委員を指名し、了承された。
2. 2020.6 発行の機関誌 57(2)「論文集」の編集についての報告
吉川委員長より本年6月発行した57(2)の掲載論文(特13、一般14、報告3)、編集経過等について説明があり、全員異議なく承認した。
(資料1)。
3. 投稿規定改訂及び症例報告ガイドライン・同意書、COI 申告書の掲載について**(資料2)**
川村前代表理事より、投稿規定改訂等は機関誌編集委員会にて審議、決定し、理事会に報告することで進めていただきたいとの了承を得たため、かねてよりご審議いただいていた投稿規定(2020.7.1付け改訂)及び症例ガイドライン・同意書、COI 申告書を58(2)、協会HPに掲載した旨吉川委員長より報告があり、全員意義なく了承した。
4. 「CAMPUS HEALTH 58(2)」(2021年5月発行予定)の編集について
次号特集テーマを「新型コロナウイルス感染症とキャンパスヘルス(案)」とした。
今後のスケジュールとして、各論文テーマと執筆者を各委員よりご提案ご推薦いただき、委員会で検討承認後、11月中に事務局より執筆依頼することとした。原稿の締め切りは、2021年2月とするこ
とで、全員意義なく了承した。
5. 査読の指針について**(資料3)**
懸案事項であった査読指針(案)について、全員意義なく承認した。
6. その他の議題について
 - ① 川村前理事よりの下記提言について、全員了承した。
(大学関係者以外からの第2種会員入会希望があった際)
「第二種会員は「大学の保健管理に関する研究者及び実務者」であって、大学に所属していなくても良い。会員資格については公益法人化する際確認済み。
同業者組合ではなく公益法人なので、すべての人に門戸が開かれていなければならないと内閣府からも念押しがあり、定款上も制限していない。
機関誌の閲覧も一般に開かれていなければいけないので、J-STAGEでの公開を進めてきた。投稿までは指導を受けていないが(投稿規定には会員に限定されている)、公益法人の趣旨からすると、投稿を会員に制限することも再検討する必要がある。」
 - ② 第1回目の査読回答書の変更について提案があり、別紙のとおり変更することとした。**(別紙1)**

③ エディター依頼時に、エディターの査読手順等について明記することを確認した。

(別紙2)

④ 肩書(Dr.・Prof.・Mr.・Ms)の記載について

必要ないとの結論に至った。

投稿規程における~~(筆頭筆者については肩書き(Dr.・Prof.・Mr.・Ms)を明記のこと)~~、
ならびに投稿論文チェックリスト ~~筆頭筆者には、肩書き(Dr., Prof., Mr., Ms.)を明記したか?~~
を削除し、英文抄録の氏名には「肩書は不要」を加えることとした。(資料2)

以上をもって閉会とした。

57 (2) 論文集(R1.5 発行) 掲載論文一覧 (掲載順)

巻頭言 川 村 孝

特集 《学生の健康白書》

はじめに -健康白書の意義-	石 黒 洋
『学生の健康白書』の疫学と有効利用	川 村 孝
女子の“18才体重ギャップ”～BEYOND 成長曲線～	山 本 祐 二
国立大学の学生の血圧と脈拍数-学生健康診断から見た30年間の推移-	丸 山 徹ほか
大学生の定期健康診断における尿検査の意義と課題	小 澤 祐 加ほか
大学生の肝機能と BMI	山 本 明 子ほか
大学定期健康診断における心電図検査の意義と課題	川 村 祐一郎
定期健康診断における胸部 X 線検査の意義	潤 間 励 子ほか
生活習慣	藤 川 哲 也
精神健康調査の実施状況-調査の限界と今後の課題-	早 川 東 作
心理相談における転帰について	古 川 卓
学部学生の死亡調査の結果から	布 施 泰 子
大学院生の自殺について-16年間の調査から-	丸 谷 俊 之ほか

原著論文

大学生における熱中症および熱中症対策の実態調査	工 藤 欣 邦ほか
薬学実務実習開始日における麻疹抗体価推測の試み	小 野 真 一ほか
ムンプス抗体陽性率低下の要因研究 -2008～2018年における医学部新入生のムンプス抗体調査-	和 泉 恵 子ほか
大学保健センターで実施してきたダニ媒介性脳炎ワクチン接種の安全性についての報告	川 原 由佳子ほか
健康診断結果からみる留学生健康問題とその支援-115か国の学生16年間のまとめ-	田 中 ゆ りほか
保健センター(学生相談室・医務室)における学生支援: 臨床心理士, 精神保健福祉士および看護師の連携	長 チノリほか
アルバイト, 睡眠, インターネット依存が講義への興味・成績, 健康感に及ぼす影響	大 見 広 規ほか
生はどんなライフスキルを獲得したいのか～岐阜大学での質問紙調査から～	堀 田 亮ほか
半構造化面接調査による大学生が求めるライフスキルや知識の探索的検討	堀 田 亮ほか
大学生集団における過剰飲酒を助長する要素・抑制する要素とその相互関係	和 山 郁 美ほか
大学生のメンタルヘルス状況と身近な相談環境に関する調査より	田 中 生 雅ほか
発達・精神障害学生の居場所支援および学習支援におけるピア・サポートの活用	早 坂 浩 志ほか
精神障害学生の根拠書類としての「主治医意見書」の作成	諏 訪 絵里子ほか

精神障害学生に対する根拠書類の運用プロセス～「主治医意見書」の在り方から考える～
諏訪 絵里子ほか

報告

主体的な学修態度と協調性の関連 － 交差遅延効果モデルによる検討 －

永井 暁行ほか

米国大学保健管理年次研究集会（American College Health Association; ACHA 2019）の
参加報告 －日米共同セッション（Joint Session between JUHA and ACHA）を中心に－

山本 眞由美ほか

Health Center at Auraria の見学報告－国際連携委員会より－ 山本 眞由美ほか

以上

(資料2)

公益社団法人全国大学保健管理協会機関誌 CAMPUS HEALTH(2) 投稿規定

(2020年7月1日改訂)

1. 投稿資格

筆頭執筆者及び corresponding author は、本協会会員とする（第一種会員所属大学の教職員・学生を含む）。ただし、依頼原稿（特集論文等）の場合は会員以外でも可とする。

2. 内容

編集は原則として特集論文を中心とし、それに加え、健康管理、医療、教育などに関する原著論文および症例報告、サマリー、所感、トピックス、行事予定・報告、各学会・分野の動向・紹介、追想文、追悼文、健康相談、書評などとする。なお、特集論文は他誌の総説に該当する。原著論文、症例報告については未掲載のものとし、二重投稿は禁ずる。

3. 論文の受付・受理および掲載

- 1) 原稿は、本協会ホームページにある投稿用フォーマットを使用し、図表、グラフ等もフォーマット中に入力されたもののみ受付けるものとする。電子原稿を本協会事務局にメールにて添付送信すること。投稿規定の「チェックリスト」にチェック、責任者署名を付し、「承諾確認書」に著者全員の署名を付し、「COI自己申告書」に署名の上、原稿送付時に同送すること。
なお、特集論文と原著論文の投稿用フォーマット、チェックリストは異なるので、注意すること。
- 2) 対象者などに文書または口頭で同意を得たもの、および著者の所属機関の倫理委員会の承認を得たものは、その旨を方法のところに明記すること。また症例報告については別に定めたガイドラインに従うこと。症例報告では症例報告同意書を提出すること。
- 3) 論文掲載の採否は2名以上の査読者の審査結果に基づき編集委員会が決定する。査読者は本会の会員大学の保健管理施設教員および推薦された専門の教員・研究者の中から編集委員会を選定する。
- 4) 論文掲載の採択が本協会から通知されたら、最終原稿を事務局に送付すること。
- 5) 本誌ならびに本協会の採択するインターネットホームページ上に掲載した論文の著作権は本協会に所属する。
- 6) 本誌に掲載した論文の無断転載を禁ずる。

4. 論文の形式

《原著論文》

原則として「要旨」600字以内、「キーワード」5語以内、「はじめに」、「対象と方法」、「結果」、「考察」、「結語」、「文献」の順に記載すること。

英文抄録には「表題」、「著者名」（肩書は不要）（筆頭筆者については肩書き（Dr.・Prof.・Mr.・Ms）を明記のこと）、「所属および所在地」、「Keywords」（日本語のキーワードに対応する英語）、「Abstract」200語以内をこの順に記載すること。

英文抄録は native speaker によるチェック、もしくはそれに準ずるチェックを受けること。

《特集論文》

原著論文に準ずるが、「要旨」、「キーワード」、英文抄録は不要。

《症例報告》

原則として「要旨」600字以内、「キーワード」5語以内、「はじめに」、「症例」、「考察」、「結語」、「文献」の順に記載すること。

英文抄録には「表題」、「著者名」(肩書は不要) (筆頭筆者については肩書き (Dr.・Prof.・Mr.・Ms) を明記のこと)、「所属および所在地」、「Keywords」(日本語のキーワードに対応する英語)、「Abstract」200 語以内をこの順に記載すること。

英文抄録は native speaker によるチェック、もしくはそれに準ずるチェックを受けること。

《原著論文・症例報告以外》

特に形式を定めない。

5. 論文記載の順序・形式

原則として刷り上がり 6 頁以内とする。

協会ホームページにある投稿用テンプレートを使用し、本文、図表、文献、等を含めた全体で 6 頁以内とすること。

《表紙》

表題、著者名、ランニングタイトル(25 字以内)を記し、下段に所属および所在地、筆頭執筆者または corresponding author の連絡先住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレスを記すること。

《章、節などの区分》

原則として、右のような形式で記述のこと。【 I . II . III・A. B. C・1. 2. 3・a. b. c】

《略語》

略語については、本文中の最初に出たところでフルネームを入れる。専門用語の解説についても同様とする。

《文献》

文献は、引用箇所の右肩に上付きで 1)、2) のように引用順に番号で示し、原稿末尾に下記の形式で番号順にまとめて記載すること。文献数は 20 件以内とする。雑誌の略号は INDEX MEDICUS の表記に従い、それがないものはフルネームで記載する。

著者は 3 名までとし、それ以上の場合には以降を省略し、英文では「et al.」、和文では「他」を付する。

原則として、インターネットホームページは文献として認めない。

(雑誌の場合) 執筆者名. 論文名. 雑誌名 発行年; 巻数: 引用開始頁—終了頁.

Alessandrini P, McRae J, Feman S, et al. Thromboxane biosynthesis and platelet function in type I diabetes mellitus.

N Engl J Med 1988; 319: 208-212.

今井草二, 遠藤真弘. 先天性冠動脈疾患. 呼吸と循環 1973;21:397-409.

(単行本の場合) 著者名. 論文名. In: 書名. 編集者名. 出版社名; 所在地: 発行年. p. 引用開始頁—終了頁.

Abboud CN, Lichtman MA. Structure of the marrow and the hematopoietic microenvironment.

In: Williams Hematology 6th ed. edited by Beutler E, Lichtman MA, Coller BS, et al. McGraw-Hill; New York: 2001. p.29-58.

白鳥康史, 小俣政男. ウイルス性慢性肝炎. In: 内科学 第 6 版. 杉本恒明, 小俣政男編. 朝倉書店; 東京: 1995. p. 1036-1039.

《図(写真)、表》

図、表、写真はそのまま印刷できる鮮明なものに限る。挿入箇所を明瞭に原稿欄外に指示すること。

6. 校正

1) 著者の校正は初校 1 回のみとし、以降は編集委員会において行う。原稿の変更は初校時までとし、軽微にとどめること。

2) 正誤表は、刷り上りの論文が著者の校正と異なる場合のみ、これを作成する。

7. 別刷り

別刷り作成は、特別に用意しない。

8. 原稿はメールに添付のうえ下記アドレスに送信し、提出締切は毎年12月31日(必着)までとする。
投稿された原稿は原則として返却しない。
(原稿送信先E-mail) juha-adm@umin.ac.jp (担当：三木)

CAMPUS HEALTH に投稿する会員各位 特集論文チェックリスト

投稿前に以下の点をチェックの上、原稿をお送りください。

- 論文は他誌に未掲載であるか？
- 原稿は、本協会ホームページにある投稿用テンプレートを使用したか？
- 図表、グラフ等も投稿用フォーマット中に入力されているか？
- 投稿規定の「承諾確認書」に著者全員の署名を付し同封したか？

- 症例の記述に際しては、匿名性に配慮したか？

- 本文、図表、文献、などを含め、全体で 6 頁以内になっているか？

《表紙》

- 表題、著者名、ランニングタイトル (25 字以内) を記したか？
- 下段に所属および所在地、筆頭執筆者または corresponding author の連絡先住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを記したか？

《章、節などの区分》

- 次の原則に従っているか？ 【I. II. III・A. B. C・1. 2. 3・a. b. c】

《略語》

- 略語については、本文中の最初に出たところでフルネームを入れたか？ (専門用語の解説についても同様とする。)

《文献》

- 以下の決まりを守っているか？
引用箇所の右肩に上付きで、1)、2)のように引用順に番号で示し、原稿末尾に下記の形式で番号順にまとめて記載すること。文献数は 20 件以内とする。雑誌の略号は INDEX MEDICUS の表記に従い、それがないものはフルネームで記載する。
著者は 3 名までとし、それ以上の場合には以降を省略し、英文では「et al.」、和文では「他」を付する。
原則として、インターネットホームページは文献として認めない。

《図 (写真)、表》

- 以下の決まりを守っているか？
図、表、写真はそのまま印刷できる鮮明なものに限り、挿入箇所を明瞭に原稿欄外に指示する。

責任著者 署 (自署) : _____

日付 (西暦) : _____ 年 _____ 月 _____ 日

CAMPUS HEALTH に投稿する会員各位

投稿論文チェックリスト

投稿前に以下の点をチェックの上、原稿をお送りください。

- 筆頭執筆者及び **corresponding author** は、本協会会員であるか？（第一種会員所属大学の教職員・学生を含む）（依頼原稿の場合は会員以外でも可）。
- 原著は他誌に未掲載であるか？
- 原稿は、本協会ホームページにある投稿用フォーマットを使用したか？
- 図表、グラフ等も投稿用フォーマット中に入力されているか？
- 投稿規定の「承諾確認書」に著者全員の署名を付し同封したか？
- 研究対象者に文書または口頭で同意を得たか？
- 著者の所属機関の倫理委員会の承認を得た研究に関して、その旨を「方法」に明記したか？
- 症例の記述に際しては、匿名性に配慮したか？

《原著論文に関して》

- 「要旨」（600 字以内）を付け加えたか？
- 「キーワード」5 語以内を付け加えたか？
- 構成を「はじめに」、「対象と方法」、「結果」、「考察」、「結語」、「文献」の順に配置したか？

《英文抄録》

- 「表題」、「著者名」を付けたか？
- 筆頭著者には、肩書き（Dr., Prof., Mr., Ms.）を明記したか？
- 「所属および所在地」を記載したか？
- 「Keywords」（日本語のキーワードに対応する英語）を付けたか？
- 英文抄録は 200 語以内となっているか？
- Native speaker 等による英文校正を受けたか？
- 論文は投稿用テンプレートを使用して、本文、図表、文献、英文抄録などを含め、全体で 6 頁以内になっているか？

《表紙》

- 表題、著者名、ランニングタイトル（25 字以内）を記したか？
- 下段に所属および所在地、筆頭執筆者または **corresponding author** の連絡先住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを記したか？

《章、節などの区分》

- 次の原則に従っているか？ 【I. II. III・A. B. C・1. 2. 3・a. b. c】

《略語》

- 略語については、本文中の最初に出たところでフルネームを入れたか？（専門用語の解説についても同様とする。）

《文献》

- 以下の決まりを守っているか？
引用箇所の右肩に上付きで、1)、2)のように引用順に番号で示し、原稿末尾に下記の形式で番号順にまとめて記載すること。文献数は 20 件以内とする。雑誌の略号は INDEX MEDICUS の表記に従い、それがないものはフルネームで記載する。
著者は 3 名までとし、それ以上の場合には以降を省略し、英文では「et al.」、和文では「他」を付する。
原則として、インターネットホームページは文献として認めない。

《図（写真）、表》

- 以下の決まりを守っているか？
図、表、写真はそのまま印刷できる鮮明なものに限り、挿入箇所を明瞭に原稿欄外に指示する。

責任著者 署（自署）： _____

論文名 _____

日付（西暦）： _____ 年 _____ 月 _____ 日

承諾確認書

公益社団法人全国大学保健管理協会機関誌「CAMPUS HEALTH58(2)」に

特集 原著 短報 報告 症例報告 その他

を投稿し、掲載された論文の著作権はすべて公益社団法人全国大学保健管理協会に所属することを承諾いたします。

なお、他誌に掲載または投稿中ではありません。

日付（西暦）： _____ 年 _____ 月 _____ 日

筆頭者氏名（自署）

所属名

上記の件につき、同意いたします。

共著者氏名（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

（自署） （自署）

機関誌「CAMPUS HEALTH」は、会員の知識や技能の向上のために、特集論文ならび一般投稿論文を公開してきたが、さらに会員間で有用な情報を共有するためには、症例報告の投稿を受け付けることが必要であると考えに至った。しかし、症例報告においては、個人を特定しうるような情報が公開されることは慎まなくてはならず、また対象者に十分な説明と同意のプロセスを経たうえで、公開する必要がある。そのため、編集委員会で審議の上、ガイドラインを設けることになった。以下の条件を満たした症例報告を、本誌の査読の対象とする。

1. プライバシーの保護

個人の情報は、症例報告の意義を損ねない範囲で、できる限り個人が特定されないよう、プライバシーを保護しなければならない。

- (1) 個人を特定可能な氏名、イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
- (2) 生活史に関連する固有名詞はアルファベットを用いる（A市、B大学など）。
- (3) 特に必要がない場合は、実年齢は記載せず、〇歳代等と表示する。
- (4) 臨床経過を知る上で必要な場合は、個人が特定できないと判断される場合は月日を記載してよい。年については、発表者の関わり開始をX年とし、X+1年、X+2年といった記載を用いる。
- (5) 顔写真を提示する際には目を隠す等、個人を特定できないように配慮する。

2. 説明と同意

症例報告を行う場合には、本誌の「症例報告同意書」を用い、症例報告の対象となる個人に対し、症例報告の目的・意義、発表する内容とその方法を、本人が理解できるように十分に説明した上で、同意を得なければならない。この場合に、同意しないことにより不利益を受けないこと、同意撤回の自由についても説明すること。なお、未成年者は、親権者や法定代理人等から同意を得る必要がある。

症例報告にあたり、施設の長などの責任者の同意を得ること。

公益社団法人全国大学保健管理協会 機関誌「CAMPUS HEALTH」における
症例報告への同意書

投稿にあたり、投稿にあたり、「症例報告」として論文執筆することについて、対象者（代諾者）および当該施設の長（または部門の責任者）に対する十分な説明を行って同意を得るとともに、以下のことを相互に理解しました。

- 「症例報告」は、大学保健に関わる者の知識、技能向上をはかり、学生や教職員の保健管理や公衆衛生の向上に寄与することを目的とする。
- 「症例報告」は、公益社団法人全国大学保健管理協会のホームページ上に PDF として公開される
- プライバシーの保護には十分注意して、個人が特定できないように配慮すること

説明者（自署）： _____

（対象者）

私は機関誌「CAMPUS HEALTH」における症例報告として、私個人に関する情報が上記の条件を満たすことにおいて、掲載され一般に公開されることに同意します。

本人（自署）： _____

—

代諾者（自署）： _____

日 付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

（施設の長・部門責任者）

私は機関誌「CAMPUS HEALTH」に、説明者が当施設の記録をもとに対象者の情報を「症例報告」として投稿することに同意します。

本人（自署）： _____ 印

日 付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

機関誌 CAMPUS HEALTH 著者 COI 申告書

- ・ 著者全員がそれぞれ1枚ずつ記入すること
- ・ 親族とは、生計を一にする配偶者および一親等の親族

・ 論文タイトル : _____

	項 目	有無の記載	対象者	有の場合、企業名などの記載
1	大学等における保健管理に関する業務および教育・研究活動に関して利害関係のある事業者等（以下、「関係事業者等」という。）の役員等へ就任し、一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額100万円以上を得ている	有・無	本人・親族	
2	関係事業者等の株式もしくは経営参画権を保有し、一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において利益として年額100万円以上を得、もしくは所有として当該全株式の5%相当以上を保有している	有・無	本人・親族	
3	関係事業者等が支払う給与、報酬、もしくは料金の受領が一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額50万円以上である	有・無	本人・親族	
4	関係事業者等が供与する労務の受領が一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額50万円相当以上の場合	有・無	本人・親族	
5	関係事業者等が寄付する金銭もしくは物品の受領が一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額50万円以上の場合。	有・無	本人・親族	
6	関係事業者等が対象者の所属する機関に寄付する金銭、物品、もしくは機関内組織の優先的利用権の確保が一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額100万円相当以上の場合。	有・無	本人・親族	
7	関係事業者等からのその他の便宜供与の受領が一事業者あたり直近の3カ年のいずれかの年において年額50万円相当以上の場合。	有・無	本人・親族	

記入日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日 署名 : _____

(資料 3)

機関誌 CAMPUS HEALTH 誌の査読にあたって

この度は、CAMPUS HEALTH 誌の査読をお引き受けいただきまして、ありがとうございます。査読の方針に関して、以下のようにお知らせしますので、ご確認の程、お願い申し上げます。

1. 査読は期日までをお願いします。事情により、回答が遅れる場合は、あらかじめ事務局までご連絡ください。
2. 査読に関しては、以下の点をご確認ください。
3. 本誌の目的である大学キャンパスの構成員における心身の健康に資する内容であるか、本協会会員の資質向上に役立つ内容であるか。
4. 人を対象とした研究に関しては、著者の所属機関等の倫理審査委員会等の審査を受けているか。
5. 目的、問題点が明確、簡潔に述べられているか
6. 実験、調査、統計方法について十分に記述されているか
7. 結果から解釈や結論が正しく導かれているか
8. 目的から結論まで論旨が明解か
9. 図表の内容、枚数は適切か
10. 要約は正確、簡潔に論文内容を表わしているか
11. 引用文献の記述は投稿規定に則っているか
12. 論文の大幅な修正が必要な場合、査読者はそれを受理に向けて、書き直す必要はありません。査読のやり取りだけでは論文の修正が不十分な場合は、いったん筆者に返し、新たに投稿を勧めることができます。
13. 本誌は、エディター制を採用しております。投稿論文はエディターがチェックリスト、体裁を確認の後、査読者を選定し、査読過程を進めます。論文受理の最終決定は、エディターの判断を経て、編集委員会にゆだねられます。

令和 2 年 10 月 1 日

(原著用)
第 査読者 (第 1 回査読) のコメント

著者名: _____

論文名: _____

..... 切り取り 切り取り

令和 年 月 日 査読者氏名 _____

(編集委員長へのコメント) ※特になければ結構です。

[本文：査読結果]

(必須) ※問題がなければチェックを入れてください。

個人情報の保護に関する法律、並びに、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に抵触していないことを確認しました。

(必須) ※2つの項目に○をお願いします。

- ① 1) 受理 2) 軽度の変更を要する 3) 大幅な変更を要する 4) 受理できない
- ② 1) 査読者による第2回査読要 2) 査読者による第2回査読不要
- 3) 編集委員長に一任する (編集委員会より再査読をお願いする場合があります)

..... 切り取り 切り取り

[本文：審査内容]

コメント

..... 切り取り 切り取り

[英文抄録：査読結果] (必須) ※いずれかに○をお願いします。

- 1) 受理 2) 軽度の変更を要する
- 3) 大幅な変更を要する (native speaker またはそれに準ずる者による再度のチェックを要する)

..... 切り取り 切り取り

[英文抄録：審査内容]

コメント

(別紙 2)

令和元年 12 月 25 日

機関誌編集委員会委員 各位

公益社団法人全国大学保健管理協会

機関誌編集委員会委員長 吉 川 弘 明

投稿原稿の査読担当エディターについて（依頼）

2020 年 5 月発行予定の CAMPUS HEALTH57（2）にご投稿いただきました添付の原稿について、先生にご担当いただきたくお願いいたします。

査読者は、下記投稿規定にありますように、2 名ご選出いただき、事務局三木までご連絡ください（役員専門分野一覧をご参照ください）。

（投稿規定抜粋）

3) 論文掲載の採否は 2 名以上の査読者の審査結果に基づき編集委員会が決定する。

査読者は本会の会員大学の保健管理施設教員および推薦された専門の教員・研究者の中から編集委員会が選定する。

査読作業の手順は下記の通りです。

- 1.論文が事務局に届いたら、事務局は編集委員長に報告する。
- 2.委員長は、責任エディターを指名し、事務局より依頼する。
- 3.指名された責任エディターは、2 名の査読者を指名し、事務局に報告する。
- 4.事務局は、査読者の査読承引の諾否を確認の上、査読者に論文を送る。
査読承諾を得られない場合は、責任エディターが新たな査読者を選定する。
- 5.事務局に 2 名よりの査読回答が届いたら、エディター（必要な場合は委員長も）が確認する（毎査読ごと）。
- 6.査読に対するエディターの意見を letter としてまとめ（委員会名）、委員長確認の上、査読回答とともに筆者に送る。
- 7.エディターが査読過程で受理可能と判断した時は、その旨を事務局に連絡する。その際、簡単な査読過程のサマリーをつける（簡単なもので結構です）。
- 8.受理の可否の最終決定は、委員会で決定する（メール審議）。

ご不明なこと等がありましたら、何なりとお問い合わせください。